

一般社団法人

全国高等学校PTA連合会

一般社団法人全国高等学校PTA連合会

(連絡先) 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1 (奥田ビル) TEL03-5835-5711 FAX03-5835-5757
発行人 牧田和樹 URL <http://www.zenkoupren.org/> eメール info@zenkoupren.org

会報

No 91

P T A の執行部役員に初めて就いたのは一九九九年愚女が小二のときで、以来、愚息に替わるもそのまま引き継ぐことになり二十年が過ぎました。この間、小、中、高のそれぞれにおいて中枢で活動させていただき、最後には全国会長を拝命することとなりました。人生の三分の一も関わってきたP T A とは、一体どのような存在だったのでしょうか。

文字どおりP T A は保護者(P)と教師(T)の団体(A)であり、敗戦後G H Q の主導により教育の民主化を題目に設立されました。民主化という表現に違和感を覚えますが、要は日本人の公益主義的精神性を、自由な教育により個人主義へと転換させる狙いがあったというところらしいです。とはいうものの、ほとんどの保護者や教師は

公益主義に基づき、子供たちのよりよい教育環境を整えるため、力を合わせ様々な活動を展開し大きな成果を収めてきました。これが今日まで、P T A という団体が社会において認知されている証なのではないでしょうか。

しかしながら、組織の宿命として、民主化と称して多様な価値観を受け入れれば受け入れるほど、ガバナンスが効かなければ統一性が失われていくのは当然のことです。P T A のような任意団体においては尚更です。そのため、現在P T A の抱えている問題のほとんどは、一部の保護者(場合によっては教師も)の個人主義的思想に端を発しているように思えますし、この傾向は年々顕著になっているように感じます。

さて、生きることや働くことの目的、生きがいや働きがいの本質は何な

のでしょうか。人と人の間に存在する人間社会において、人が求める究極のものは承認欲求だといわれています。つまり、他者から認められることに喜びを感じるといふことであり、換言すると、他者から承認されることで、自身が成長していることを実感するということなのです。もちろん、どのようなことで承認されるかというのも重要なことで、世間や人の役に立つことが大前提であることは疑う余地もありません。

そのような視点でとらえるとP T A 活動をする目的も、生きることや働くことと同じ意義があるのではないのでしょうか。三年前、会長に就任したときの挨拶で、中村文昭さんの「頼まれごととは試されごと」を紹介しましたが、全国というフィールドで成長を実感できるのか、あるいは、認めて

いただけるような活動を展開できるのか、ということを試されているのだと自戒し臨みました。この二十年、いい意味で周囲の期待を如何に裏切るか、ということに常に求めているように思います。

また、間接的に承認欲求を満たすことに寄与しているのが人脈です。P T A を通じてたくさんの方々と出会い、人間関係を築いてきました。全国組織に携わった六年間において、執行部、事務局はもとより都道府県市連合会はじめ外部機関の方々と、今日まで親しくお付き合いさせていただいています。林芳正元文部科学大臣とも静岡の全国大会に来ていただいたご縁で、初めての面会以来、気楽な雰囲気です。定期的に食事を一緒にさせていただいています。お陰で政治情勢には敏感に反応できるほどの永田町通

になりました。

「人は人によりて磨かれる」とはまさに真理であり、人脈の数と質はそのまま、その人の見識の広さと深さを担保するのではないのでしょうか。その域に少しでも近づけたらと思うのですが、未熟な人間力ゆえ忸怩たるものがあります。

全国組織での活動、とりわけ会長を担わさせていただいた期間、「世の中で唯一変わらないのは、世の中が変わり続けること」といわれる社会において、どれだけの期待にお応えできたのかは知るよしもありませんが、都道府県市連合会をつなぐ連絡調整機関として、何かしらのお役に立てたのであれば嬉しく思う次第です。ご縁をいただいたすべての方々に改めて感謝致します。大変お世話になりました。



P T A 活動を振り返って

一般社団法人全国高等学校P T A 連合会会長

牧田和樹

今号の主な内容

会長挨拶	1 頁
令和元年度後期 全国高P連の活動報告	2 頁
地区トピックス	3～9 頁
北信越地区／東海地区／近畿地区／中国・四国地区／九州地区 北海道地区／東北地区／関東地区／東京地区	
賠償責任補償制度のお知らせ	10 頁

令和元年度後期 全国高P連の活動報告

2月8日(土)東京ガリデンパレスにて全国会長事務局長研修会、並びに昨年10月に予定されており台風上陸のため延期しております。また会長連絡会・事務局長連絡会が同時開催されました。

全国会長事務局長研修会

牧田和樹会長の委員として参加している「文部科学省 大学入試のあり方に関する検討会議」の報告を交えての挨拶から開始いたしました。研修会は講演二部仕立てです。

講師

文部科学省高等教育局
大学振興課大学入試室
室長 前田 幸宣氏

演題

「大学入学者選抜改革の現状について」

大学の入試改革、英語民間試験活用・記述式問題の経緯、大学入試のあり方に関する検討会議、各大学が実施する個別選抜改革、大学入学者選抜の公正確保等について解説をいただきました。質疑応答で多くの挙手があり大学入試への関心の高さが伺えました。

講師

(株)リクルートマーケティングパートナーズ
山下 真司氏

演題

「高校生と保護者の進路に関する意識調査」調査結果報告について

本会は、隔年ごとに全国の高中生と保護者の進路に関して、(株)リクルートマーケティングパートナーズと合同調査を実施しております。
令和元年度、第9回調

査の分析結果報告と解説をいただきました。

報告書は本会ホームページでご覧いただけます。

資料BOX↓調査研究↓高校生と保護者の進路に関する意識調査↓第9回「高校生と保護者の進路に関する意識調査結果報告」令和2年2月

また、リクルート発行のキャリアガイダンス誌にも「調査報告」として掲載されております。



全国大会開催報告・案内

令和元年度全国大会京都大会奥野貴史実行委員長より、大会への参加協力のお礼と報告がありました。

また、令和2年度開催予定の島根大会大屋光宏実行委員長より参加案内とお願いがありました。

世界的な新型コロナウイルス感染拡大、政府による緊急事態宣言の影響により全国大会島根大会について、今年度は中止し、来年度に延期開催する事になりました。

会長事務局長連絡会

会長連絡会と事務局長連絡会とに分かれ同時開催いたしました。

会長会では会長としての取組・感想等の発表、事務局長会ではPTAの在り方等についての話し合いがされ、有意義な会となりました。

会長・事務局長の皆様、ご出席ありがとうございました。



北信越

富山県高等学校PTA連合会

地区トピックス

子供たちの健全な成長を願って

富山県高等学校PTA連合会では、子供たちの健全な成長を願う思いから、いくつかの活動を実践していますが、ここでは、「イレブン・セブン運動」と「さわやか運動」について紹介します。

イレブン・セブン

(11・7)運動

平成26年度の県高P連生徒生活委員会(現在は教育向上委員会)において、スマートフォン等でゲームやLINEをはじめSNSを深夜まで利用すれば、学習時間や睡眠時間の不足による生活習慣の乱れ、ひいては人間関係のトラブルを引き

起こしかねないということが話題になりました。そのため、スマートフォン等を使用しない時間帯(概ね、夜11時から翌朝7時)を設けることで、子供たちがSNSを気にするこのない時間を確保することができればと、理事会等での協議を経て、「夜11時から翌朝7時までスマートフォン等の携帯端末を使用しない」とを家庭や学校で話し合い、実行する運動を始めることとなりました。



イレブン・セブン運動ポスター

た。この運動を「イレブン・セブン運動」と名付け、運動への参加を呼びかけるチラシを作成し、平成27年度の新入生保護者に配布し、生徒にも呼びかけました。また、運動を呼びかけるポスターを生徒から募集し、優秀作品の表彰も行いました。

この運動は現在も継続して行っており、アンケート調査によれば、運

動を知っている生徒は知らない生徒に比べ、使用時間の管理ができており、夜遅くまで使用している割合も小さいという結果が出ています。「与える保護者の覚悟、使う子供の責任」をスローガンに、今後とも学校と家庭が連携して、スマートフォン等のルール作りを進めていきたいと考えています。

さわやか運動

本県では、生徒の規範意識やマナー向上を図るため、各学校において、6月と10月に「さわやか運動」を実施しています。この運動は、平成12年度に「高校生マナーアップ大作戦」として開始され、

平成13年度から「高校生さわやか運動」と名称を変え、平成16年度秋から「さわやか運動」として、高校生に限らず、県内すべての小・中学校にも、時期を合わせた地域ぐるみの実施を呼びかけ、現在に至っています。令和元年度は、『礼と令輪と和をつなぐあいさつを』を統一スローガンとして実施されました。本連合会でも、他団体と連携して、各学校の実情に応じ、保護者が学校周辺や最寄り駅で生徒の登校時にあいさつを交わし、この活動を実践しており、あいさつだけでなく、清掃活動などの環境美化活動や、駐輪場の整理整頓、鍵かけ運動にも協力して



さわやか運動

います。

地域によっては、小中学校の保護者とも連携しながらの活動となるので、相互の交流の場ともなり、子供たちを見守る良い機会となっています。

東海

静岡県公立高等学校PTA連合会

地区トピックス

静岡県公立高等学校PTA連合会の活動紹介

静岡県公立高等学校PTA連合会は、昭和37年にPTA会長連絡会として発足し、連絡協議会を経て平成27年に現在の名

称となりました。その間、昭和56年度第31回、平成29年度第67回と2回の全国高P連大会静岡大会を開催しています。本年度

は、高校全日・定時制・併設中等部、特別支援学校合わせて118単位PTA、約7万1千人の会員が加盟しています。

- 本会の事業には、
- ①指導者研修事業
 - ②青少年健全育成事業
 - ③広報事業
- の3つがあります。
- ①指導者研修は毎年6月に県総会・表彰式の後

に県全体の研修会を開催しています。

本年度の研修会は、元静岡県立大学学長で食品科学分野が専門の静岡県教育委員会木苗直秀教育長による「食と健康を

考える」地場産品を活用して心身の健康を目指す」と笑う文字普及協会代表理事広瀬まさみ氏による「大人が子供に渡せるもの」感謝と喜びの循環」の講演会を行い

ました。教育長は孤食は消化液の出方にも影響するため、家族そろって食事することの大切さを説き、広瀬氏は、一日に何回子どもにありがとうの言葉をかけているかを参加者に問い、自分の子供以外にも声掛けをしてあげることで、くじけた時に戻る力になると。二つの講話とも家庭や地域での子どもへの接し方など、今後すぐに活かせる貴重なお話でした。

また、静岡県は、東部・中部・西部という地域分けをしており、それぞれ地理・産業・文化・風習などが若干異なっています。そのため、県高P連では、地域の実態を踏まえ、県内10地区と特別支援学校PTA部会に分けて地区PTA指導者研修会を実施しています。今年は、県全体で1,711人の保護者が参加しました。

各地区では講演会以外に、各単Pの活動報告や、ある地区では「PTA主催行事の計画」「進路指導へのPTAの関わり」「PTAと地域連携」などのテーマについてグループワークで意見・情報交換などを行っています。



県研修会



教育長講話



地区研修会



善行表彰

多くあります。本年度は火災現場で消防車が到着する前に二人の住民を救助した生徒を表彰しました。大人たちが子どもたちの善行をきちつと評価してあげることは、子供の自己肯定感や自己有用感の醸成にもつながるとともに、他の高校生への影響

も多少に関わらずあるはず。③広報として、年2回9月と1月に会報を発行しています。A4版カラー8ページで、高P連の事業報告、学校・PTA紹介、県教育委員会や安全振興会からのお知らせなどを掲載しています。

それ以外にも県教委主催のいじめやネット依存対策、運動部活動の在り方に関する会議で保護者代表としての意見を述べ、その他、防犯・交通安全、職業能力開発、社会教育、障害者差別解消など他団体との連携も行っています。

近畿

地区トピックス

和歌山県立日高高等学校PTA連合会

和歌山県立日高高等学校双成会の活動について

本校は大正3年設立の旧制日高高等女学校、大正11年設立の旧制県立日高中学校の流れをくみ、昭和23年に県立日高高等学校となり令和元年に創立105周年を迎えました。普通科と総合科学科からなり、また平成20年

には附属中学校を併設。定時制及び中津分校を併せ持つ中紀地方の中核校として、「翔べ日高から世界へ」とのスローガンのもと、地方を創生するグローバルリーダーの育成に力を注いでいます。PTA（一般社団法人

双成会）は、本校全日制と附属中学校で構成され、学校と家庭が密接な協力のもと、教育効果の高揚を目的とし、平成25年に一般社団法人化を図り活動しています。また、向学の風を育成するため、①「子供の服装を点

検し、時間的余裕をもって登校させよう。」②「子供の生活実態を把握し、子供との会話の機会を多く持とう。」など、保護者としての実践目標を定め、日々子供の成長を見守っています。

【制服リユース制度】主な活動を紹介します。資源を有効利用し物を大切にすることを育むことを目的に、使わなくなった制服を再利用する「制服リサイクル登録制度」として平成20年にスタートしました。平成27年に「制服リユース制度」と一新し、提供いただいた制服を常に保管し、在庫をホームページに掲載するなど利便性を向上。今

では、経済的負担の軽減だけでなく、雨の日の替えや成長に合わせた対応ができること好評で、今年は既に約40件の利用があります。

【国際交流支援】中華人民共和国の西安中学、大連市第十六中学校、デンマークのフレデリクスハウン高校との姉

妹校提携やSGH、さらサイエンス事業など、各国からの長期・短期の留学生受け入れ、本校生徒の海外留学派遣など、活発に国際交流が図られています。双成会では、留学生や交流生のホームステイ、地域産業や日本文化の体験など、思い出に残る感動ある交流が図れるよう、また、講演会

やワークショップなど、国際理解教育の推進のため、地域の皆様とともに支援・協力を行っています。

○その他の取り組み

○文化祭ではバザーを行います。会員だけでなく地域の方々からも多くの物品を提供していただき、オープン前から長蛇の列ができるほどの人気で、経費を除

いた売り上げを生徒会活動に支援しています。

○自転車安全運転街頭指導を交通安全週間と毎月1日と15日に実施しています。子供たちの通学風景も見ることができ、「おはようございます。」との挨拶で元気をもらい、一日がスタートできます。

○その他、「双成会通信」の発行。日高未来塾講演会支援や地域合同避難訓練など、積極的に参加し、学校・地域と協力しながら、子どもたちの成長の一助となるよう日々活動しています。

（一般社団法人双成会 会長 源地勇人）



ベトナム研修（JICA）



全国高校生フォーラム

中国四国

愛媛県立今治西高等学校伯方分校

サイクリングの聖地から

本校は、瀬戸内海のしまなみ海道沿いに位置し、全校生徒100名程度の小規模校です。一昨年、創立70周年を迎え、昨年から今治西高等学校の分校となり、新たな一歩を踏み出しました。

本校では、サイクリングの聖地として全国に名を馳せるしまなみ海道沿いに位置するという地理的条件を生かして、サイクリングを通じた学校の魅力化とアピール、地域内外の方々との触れ合い等の取組を積極的に推進しています。

取組の中心は、毎年10月に開催する学校主催の

サイクリングイベントです。本校のサイクリングイベントの特徴は、参加グループごとに伯高生が案内役として伴走し、コースの誘導やチェックポイントでの観光案内等を行い、参加者とコミュニケーションをとりながら島内をサイクリングし、伯方島や伯方分校の魅力をアピールすることです。最初はぎこちないグループでも、約2時間のサイクリングをする中で互いの距離が縮まっていきます。

ゴール後には、PTAの方が用意してくださった昼食をとり、一層交流を深めます。これまで3回

開催し、リピーターの方も出てくるようになり、生徒たちにとつて自信や励みになっています。イベント後のアンケートでは、総合的に満足したという参加者の回答が99%



イベントが学校や地域の魅力発信に役立つと回答した生徒が96%に上るなど、生徒・参加者ともに高い評価を得ており、学校のホームページの閲覧件数が飛躍的に増加するなど、具体的な成果も現れるようになりました。



その他にも、講師を招いて自転車講習会を実施したり、地元で開催されるサイクリングしまなみや今治伯方島トライアスロン等のイベントにボランティアとして参加するなど、サイクリングをキーワードとした活動を



継続しています。

小規模校のため、運営上苦労することも多々ありますが、こうした活動を通じて地元へサイクリング文化を根付かせ、高校生による地域の魅力発信に貢献していきたいと考えています。



九州

佐賀県高等学校PTA連合会

地区トピックス

第43回全国高等学校総合文化祭

(2019さが総文)の開催

「第43回全国高等学校総合文化祭（2019さが総文）」が、令和元年7月27日から8月1日までの6日間、全国及び海外から約2万人の高校生

と多数の観覧者をお迎えし、佐賀県で開催されました。平成26年度に文化庁から佐賀県開催内定通知をいただいた後、大会の視察や実行委員会

心を持った生徒実行委員が「佐賀の魅力、文化部の魅力を伝えたい」との想いを込めて企画した「はばたけ！ミライの担い手プロジェクト」のパネル展示とビデオ上映で来場の皆さまをお迎えしました。第1部「式典」



パレード

各部門大会では、生徒実行委員が趣向を凝らした生徒交流会を実施し、全国から佐賀に集まった仲間との交流を深めることができました。さらに、佐賀の魅力発信や記憶に残るおもてなしを踏まえた大会づくりを目指し、佐賀県が一枚岩となつて大会の成功を導くことができました。



10日前団結式



総合開会式

などして長期間にわたり準備を進め、総合開会式をはじめ、県内各地において23部門の大会運営に県内の全高等学校・特別支援学校の生徒たちが関わってくれました。

総合開会式では、まず、大会運営の中

の後、第2部「交流」では、中華人民共和国、オランダ王国、大韓民国の3カ国の高校生の演奏・演技が行われました。第3部「開催地発表」では、大会テーマ「創造の翼を広げ、蒼天へ舞え、バ

とところで、開会まで残り10日間となつた7月17日（水）に佐賀県庁県民ホールで「開催10日前団結式」が行われました。その場で佐賀県高P連の西岡会長が激励のことばを述べる機会がありました。西岡会長は「他県から参加される方をおもてなしの心を持って迎えてください。人のためにと

長した自分が発見できると思います」こうしたことばで激励をされました。大会終了後に、会長は実行委員会の生徒たちから、「それが実感できた」ということばを聞いて、佐賀県の高校生は素晴らしい、これまでPTA活動に携わってきたよかったと、会長自身も感動されていました。ほんとうに皆さんの心についてまでも残る素晴らしい大会でした。

北海道

北海道高等学校PTA連合会根室支部

地区トピックス

支部の事業に効果的に活かす学校や単Pの取組

北海道高等学校PTA

連合会は13支部から構成

されていますが、北海道

は九州の約2倍の面積があり、支部の平均面積はおよそ九州の1県に相当

します。今号では根室支部の活動の様子を紹介します。

根室地区には、内陸部の酪農、サケの遡上でも知られる沿岸部の漁業、世

界自然遺産の知床半島の観光など多彩な顔があり、北方領土を遠望することもできます。また、高校生が地理の授業で学ぶ砂地形の砂嘴（さし）からなる野付半島でも知られています。

根室支部を構成する6校には、それぞれの特色ある教育活動とそれを支える単Pの活動があり、複数の単Pが集う支部レベルの諸事業の展開にも効果的に活用されています。根室支部事務局校の標準高校では、標津町の豊かな自然を教材とした「地域と自然」「環境保護」などの環境系科目が設置されているほか、地震災害等に備えた防災教育に

も力を入れており、内閣府の「防災教育チャレンジプラン」の実践校でもあります。PTAもこれらの特色ある活動に積極的に協力しています。

令和元年度の支部事業を紹介します。5月18日には支部総会に続いて、参加者によるポー川史跡自然公園の地域巡検が開催されました。ポー川史跡自然公園は湿原の豊かな植生と古代の人々の生活の跡が随所に見られるのが特徴で、参加者はビクターセンターで出土品などを見学した後、木道を進みながらコケモモなどの湿原性植物を観察したり、古代人の住居跡付近では冬季でも凍らない

湧水に手を浸すなど、自然と人間の営みを実感できる巡検となりました。ネイチャーガイドは標準高校の自然環境系科目選択生徒が務め参加者からは分かりやすい説明などの感謝の声がありました。地域巡検の後には会場を替えて懇親会が行われ、豊かな海産物に舌鼓を打ちながら親交を深めました。

9月28日の「高校生と語るつどい」では、各校のPTAと生徒を合わせ73名が参加して、HUG（避難所運営ゲーム）を行いました。HUGでは高齢者や病弱者、ペットを連れた人など様々な避難者や、避難所の生活環境など、多くの事柄への



地域巡検



語る集い①



語る集い②

対応が必要となります。議論の中では「うちの学校だったら、うちの地域では、うちの職場なら」という声が続々と聞かれました。HUGでは現れないそれぞれの世代や地域の視点が加味された活発な意見交換となりました。参加者に

も防災意識が広がり、意義深い研修となりました。また、休憩時間には災害非常食の試食も行われるなど行き届いた事業運営に高い評価が寄せられました。

単Pの活動には、学校の特徴ある教育活動の理解の上に立って、それを

東北

地区トピックス

宮城県高等学校PTA連合会

社会の変化とともに進化する研修会

—みやぎ高校PTAフェスティバル—

宮城県高P連の会員研修会は、時代の変遷とともに形を変えて受け継がれてきました。

1 講演中心の研修会

当会では、長い間支部ごとの研修会と会員中央研修会が実施されてきま

した。これら研修会は、その時代の教育課題や生徒理解について、会員相互の共通理解を図り、会員の資質向上に大きな役割を果たしてきました。しかし、会員中央研修会の講演中心の一方向的な受け

身のやり方に疑問を持つようになってきました。

2 フェスティバル的な研修会

そこで、平成14年から、単P会長による活動発表を、会員参加型の楽しみながら発表できるア

トラクション的な発表に変更し、名称も「みやぎ高校PTAフェスティバル」と改称しました。

変更後は、割り当てられた単Pによる合唱の披露や踊り、伝統芸能、和太鼓、ゴスペルなどアトラクション的なものが主流となりました。また、アトラクション以外の発表もスライド、VTRな

PTA活動に一石を投じたフェスティバルでしたが、運営やアトラクション的な発表の負担感から支部持ち回り開催や内容について持ち方が検討されました。

検討の結果、平成18年からは、仙台での固定開催、講演と工夫を凝らした単P活動発表の2部構成で新しいフェスティバ

3 講演、単P活動発表の2部構成

関東

地区トピックス

神奈川県立高等学校PTA連合会

学び、行動するPTA

神奈川県立高等学校PTA連合会は、会員数約12万5000人、148校が加盟しています。

活動方針は、生命尊重の理念に立ち、青少年の豊かな心身を育む活動や、会員の生涯学習の充実を図り、家庭・学校・地域との連携を通して高等学校教育・中等教育学校教育を支援し、実効あるPTA活動を展開する、としています。

「学び、行動するPTA」をスローガンに、特に健全育成事業に力を入

ルがスタートしました。その結果、単P活動発表は会長による口頭発表か、アトラクション発表のどちらかになりました。平成25年以降は、アトラクション発表はなくなり、すべての発表が単P会長ひとりまたは役員数名で発表するオーソドックスな画一的な活動報告になってしまいました。

4 進化する研修会

は、講演、単P発表のほか、全国高P連大会のようなアトラクションとパネルディスカッションを設定しました。アトラクションは、PTA合唱団、生徒合唱部、生徒ダンス部の発表など短時間でプログラムに入れました。また、パネルディスカッションは、PTAの活動意義等をテーマに実施されるようになりました。さらに、令和元年のフェスティバルからは、

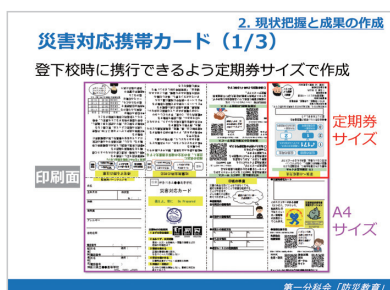
趣の異なる講演を2つ設定し、画一化した単Pの活動発表をやめました。発表をやめた代わりにパネルディスカッションのパネリストが自己紹介を兼ねて所属校の活動紹介を行い、その後テーマに沿った意見交換を実施しました。

参加者のアンケート結果では「満足」、「やや満足」が90%を超えています。これからも「フェスティバル」と改

称した当時の趣旨を大切に、社会の変化に対応し

た、会員が満足できる「みやぎ高校PTAフェスティブアル」になるよう取り組んでいきます。

れています。青少年を取り巻く様々な問題について、会員へのアンケート結果から関心の高いテーマを取り上げ、各校から募集した分科会員と共に、調査検討や会員への情報提供を行う健全育成分科会の活動を平成29年度より実施しています。



災害携帯カード



健全育成分科会

3年目となる令和元年度は、「キャリア教育」「保健安全教育」「人権教育」をテーマに、社会情勢を踏まえ、専門家の意見などを取り入れながら、自ら考え、県大会などの場で広く会員へ情報提供する活動を実施しています。



広報紙コンクール

況です。中でも、県大会の広報紙コンクール表彰式では、多くの応募作品の中からPTAとして必

「リンクルシップ教育」への理解促進やLGBTなど性的マイノリティへの理解を深めるための映画上映など、多くの実績を残しています。これらの取



アトラクション（PTA合唱団）



パネルディスカッション



フェスティバル運営

要な情報を伝えるとともに、企画、デザイン性、インパクトなどを総合的に判断して評価された広報紙を作成したPTAを表彰しています。

今年度も受賞校に事前

に受賞内容を伝えず、式で各賞を発表する形式をとりました。最優秀賞に選ばれた七里が浜高校の広報紙のメイン特集「未来に向けて学びが変わる」は、AI（人工知能）

の普及で社会が大きく変わりゆく中で、今後の教育の行方、あるべき「学び」の姿を探り、子どもの将来を気に掛ける親の思いに応えた好企画と高い評価を得ました。

県内10の地区協議会の活動も活発で、毎年各地区で地区大会を開催、生涯学習に資する講演会の実施や、趣向を凝らした各校PTAの研究発表などを行っています。その

他にも自転車通学や、ながらスマホの防止などの交通安全課題について、生徒と共に研究発表する「交通安全大会」も30年以上の長きにわたり開催するなど、活発な活動を

展開しています。

神奈川県立高等学校PTA連合会では、これからも会員の皆さまの役に立つ「学びの場」を提供できるよう取り組んでまいります。

東京

地区トピックス

東京都公立高等学校PTA連合会

東京地区令和元年度トピックス

「制服リユース」

加盟校全校ではありませんが、制服のリユースに取り組んでいる学校が多くあります。制服だけでなく、体育着や柔道着も扱います。

カビが発生してしまうなど、思わぬ苦労することもあります。最近では「JK」などと言って販売する店もあると聞きます。

譲渡するのは生徒に限るとか、卒業時に提供を呼び掛けるとか、文化祭

などで人が多く集まる機会に回収や譲渡するなど、学校ごとに多少の違いがあるものの、どの学校も同様に工夫し、役立ててくれる人のことを思っ

て頑張っています。

東北大地震後、避難してきた方に使ってもらったこともあります。

連合会では、未実施校

の参考になるよう活動ガイドを作成しました。

「高校生東北被災地視察ツアー」

加盟校の生徒を対象に参加者を募集して、東日本大震災の影響が残る福島県に視察に行っています。『百聞は一見に如かず』とはよく言ったものです。高校生が、真剣な

眼差しで話に聞き入っている様子や、時には笑顔を見せながら話す様子に、実際に足を運ぶことの大切さを実感します。

福島県連の菅田会長様・大和田事務局長様には、今年度も大変お世話になりました。毎年、本当にありがとうございます。

「会長選挙」

橋本会長の任期満了に伴い、令和2年2月22日に国立オリンピック記念青少年総合センターで令和2年度都高P連会長選挙が行われました。

今年度は2名の立候補者があり、当日は立候補者の所信表明立会演説、応援演説があり、投票する側も今後の新しい都高Pの新しいリーダーとしてどちらを選ぶのかを決める

ため演説に聞き入り会場は大いに盛り上がりました。

投票の結果、次年度会長には内海潤さんが当選しました。

新会長となる内海さんから今後の抱負について質問形式でお尋ねしました。

Q1. 今の率直なお気持ちを？

嬉しい気持ちと責任の重さから来る不安が半々です。

Q2. 都高Pの変革には何が大事だと思いますか？

従来からのやり方をしがらみなく一新することだと思っています。

Q3. 都高Pの現状をどう思いますか？

加盟校より未加盟校が圧倒的に多いのは健全ではありません。

Q4. 会長としてまず、何をしたいですか？

都高P執行部の役割確認と権限移譲です。各役員のパフォーマンスを100%発揮してもらい「使える」都高Pを目指します。

Q5. 会長としての意気込みをお願いします

私が選ばれたということとは改革に期待する人が多かったことの証左です。その期待に応えて改革を進めたいと思います。

新会長の任期は、令和2年6月13日に行われる定期総会からスタートします。都高Pが今まで築きあげてきたものを土台とした新しい改革を目指す新会長の魅力ある展開に期待します。

それまでは現橋本会長のもと、全力で頑張っていきます。



被災地視察①



被災地視察②



会長選挙

全国高等学校PTA 連合会賠償責任補償制度のお知らせ

あなたの学校も加入しませんか？
全国加盟高校の2校に1校が加入しています。

掛金

年間400円（保険料391円＋制度維持費9円）×生徒数

※補償開始日が平成31年4月1日の場合。補償期間中の加入については、月ごとに掛け金が減額となります。

補償期間

令和2年4月1日～令和3年4月1日

補償の範囲と支払済高額事故事例

＜生徒もしくはPTAに過失があった場合が対象となります＞



補償の範囲	補償限度額	事故発生 件数割合
1. 生徒の行為に起因する賠償責任 (生徒個人の賠償責任)	対人・対物合算 ^(注) 1事故1億円 自己負担額1事故5千円 (注) 対人事故・対物事故合算して1億円が限度となります。	99%超
2. PTA活動の遂行に起因する賠償責任 (PTAの賠償責任保険)	対人 1名5千万円・1事故5億円	1%未満
	対物 1事故5千万円 自己負担額1事故1千円 (注) 対人事故・対物事故それぞれに適用されます。	
	保管物 加害者1名 10万円 保険期間中 500万円 自己負担額1事故5千円	

年度	支払金額(千円)	事故内容
H19年度	87,915	無灯火の自転車歩道を走行中、後ろから人に追突し転倒させ、脳挫傷により要介護状態となり、死亡させた。【過去最高支払金額】
H24年度	40,206	自転車で歩行者と衝突し、脳挫傷を負わせ、死亡させた。
H24年度	20,040	ゴルフの練習中にゴルフクラブが友人の左目にあたり失明。
H26年度	23,602	自転車で歩行者に後ろから衝突し、脳挫傷を負わせ、死亡させた。

☆上記のとおり自転車による人身事故が高額支払いになる傾向がありますが、自転車事故に限らず国内における事故を24時間、幅広く補償しております☆

詳しくは、「全国高P連賠償責任補償制度」手引き・チラシをご覧ください。
(各学校へ1月下旬にお送りしています。)

●制度についてのお問い合わせ窓口

一般社団法人 全国高等学校PTA連合会
東京都千代田区神田佐久間町2-1
奥田ビル301号
TEL.03-5835-5711

●引受保険会社

引受幹事保険会社 東京海上日動火災保険株式会社 TEL.03-3515-4133
(担当：公務第二部 文教公務室)
共同引受保険会社 AIG損害保険株式会社 TEL.03-6848-8480
三井住友海上火災保険株式会社 TEL.03-3259-4061
損害保険ジャパン株式会社 TEL.03-3349-9588

AIG損害
一般社団法人 全国高等学校PTA連合会後援
AIG 高校生外交官プログラム
(参加費無料)
<http://www.highschooldiplomats.org>

「育てたいのは、
子供たちの未来。」
私たちはAIG 高校生外交官プログラムを協賛しています。

AIG損害保険株式会社
tel:03-6848-8500 <https://www.aig.co.jp>

立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の
安心

GK

クルマの保険
住まいの保険
火災の保険

www.ms-ins.com

挑戦の
数だけ、
保険が
ある。

To Be a Good Company

TOKIOMARINE
NICHIDO 東京海上日動

SOMPO
ホールディングス
安心・安全・健康のテーマパーク

損保ジャパン

損保ジャパンは
SOMPOホールディングスの一員です。
損害保険ジャパン株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
TEL.03-3349-3111
<https://www.sompo-japan.co.jp/>

